

文芸

俳句

春が来て体のギアを入れ替える

池田 逸子

詰襟の自転車部隊風光る

伊藤 敬子

親に孝詫びし天空舞ふ燕つばめ

今関満喜子

捨てられた鉢の中にも春が来た

魚地 照子

永き日を使ひ切つたる一人旅

江森 悦子

母卒寿童女にかへり葱の花

川島 通則

親と子が鳴き声交し鴨帰る

向後 寛

春霖や子等にはせまき十畳間

越川せつ子

葱坊主兆すや出荷急かさるる

越川 福子

ときめきのミニスカートの春大根

小松 藤男

墨蹟展春愁の肩たたずめり

佐瀬 輝夫

待ちわびて羽織るや去年の花衣

椎名万里子

葱坊主姿勢崩さず凜として

鈴木とし子

もののけに折られし首の葱坊主

鈴木 利子

耳たぶのごとくふくよかや草の餅

玉虫 栗扇

あと少し出荷をせかす葱坊主

土屋美枝子

鬼舞の寺は直ぐそこ葱の花

土屋 義昭

轉さえずりは何處ぞ我が家の樹々の梢うしな

戸村 静華

光町畑の主や葱坊主

西崎さち子

白梅のどこか寡黙の人に似て

早川 勇

短歌

十九で己が死見つめし事あるも
今となりては唯夢の如し

鈴木 益郎

うらうらと照れる櫻の下歩む
足もと危ふき身を庇いつつ

高梨 キヨ

山里の春の光は柔かく
ぬくもり残して静かに暮るる

土屋 好

永らいて勲章ならぬ才への痕あと
生涯消いざる不覚の証拠

伊藤 定男

野菜種指の間をくぐり抜け
秘めしいのちの地に還りゆく

越川 義則

美しく楽しく過し老いの道
どんな坂でも笑顔たやさず

内藤 くに

房州の花壇で摘みしストックが
帰る車内にほのと香れり

八角 三枝

切り分けし林檎啄ばむ鴨幾羽
餌皿を飛ばし飛び去り行きぬ

鈴木まさ子

軽やかに縄飛びしてゐる児等の手は
風車かぐるまなり速き増しゆく

西山満里子

今年亦種播の手伝ひ無事にでき
ミスなく終へてはつとしてみつ

青木 秀子

卵抱く親鶏のごとく吾が夫は
インフルエンザの孫に添ひ寝す

押尾 輝子

吾が庭の片隅にゐる野兎の
眼と出会ふ独り居の午後

田崎 尚美

犬走り打つ雨音も聞こへ来る
児等の帰りし校庭閑か

島田ますみ

アメリカを旅する娘の帰り待つ
土産話を聞かむ思ひに

平山 芳子

吹く風に尾花はゆれて久に來し
娘らを呼ぶがに御辞儀するなり

吉岡 信子

柔らかな陽射しとなりて里の田は
畔塗りたるが多くなりたり

芹川 初子

大震災の後職を辞めたる男の孫は
石巻市でボランティアに励む

斉藤つね子

こうほう博物館 50

湿原の青

緑がまぶしくなる初夏から

梅雨の頃になると、篠本湿原

では青色がぼつぼつと目立つ

ようになります。これはノハ

ナショウブというアヤメ科の

花で、日本各地の山野の湿地

に自生していたそうです。篠

本湿原については、前に「湿

原のチドリ」のところで述べ、

ノハナショウブについても紹

介しましたが、ここではこの

花についてもう少し取り上げ

たいと思います。

五月、端午の節句に付きも

のの花と言え、名前の読み

と「勝負」とが掛け合わせ

た花菖蒲ですが、これは江戸

時代から園芸品種として改良

されたものを指します。その

品種改良される元となった原

種が、ここに紹介するノハナ

ショウブです。日本各地に自

生していたことから各地で選

抜改良されたため、花菖蒲に

は江戸系や伊勢系、肥後系な

ど、原種とは似つかない豪華

な花を咲かせます。また、原

種に近い系統として長井古種

と呼ばれるものが山形県で栽

培されています。近年では花

菖蒲の豪華さが海外でも注目

され、外国でも盛んに改良さ

れてこれまでになかった品種

も生まれ、日本に逆輸入され

ています。

しかし、改良された豪華な

花菖蒲よりも、野に咲くノハ

ナショウブの方が、すっきり

とした花形で、清楚な感じが

します。篠本湿原で咲く花は

なかなか見ることができませ

んが、坂田池公園の湿生植物

園で見ることが出来ます。



▲「ノハナショウブ」